

認知症予防プログラム普及 および

認知症共生社会実現に向けた支援モデル検討業務 成果報告会

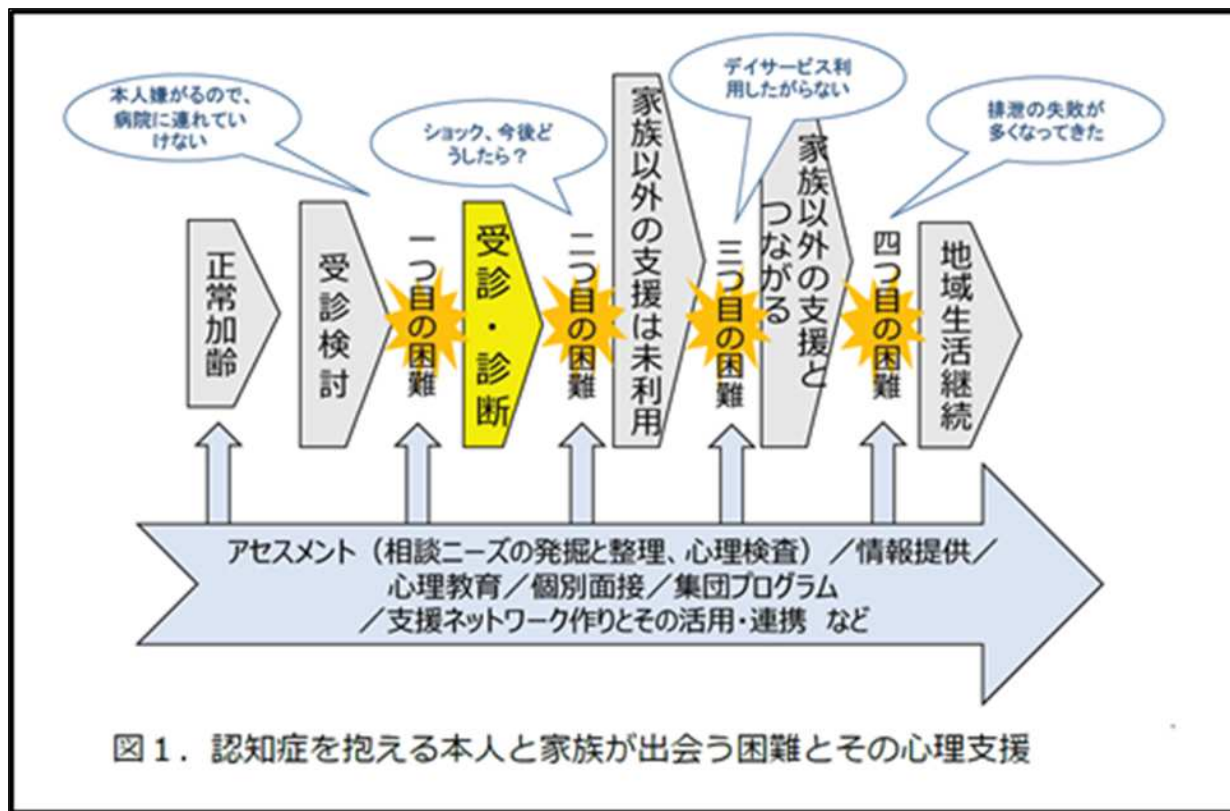
認知症共生社会実現に向けた 支援モデル検討業務

香川県地域包括ケアシステム学会委託事業

市町の抱える問題意識

- ・適切な医療・支援へのアクセスの確保
- ・認知症の人や家族を支える地域の環境整備

【認知症の本人と家族に生じる困難のイメージ】



1つ目の困難	相談先が分からない 受診への抵抗感
2つ目の困難	混乱・絶望からの再スタート
3つ目の困難	本人や家族の負担
4つ目の困難	必要なサポートの変化

出典：東京都健康長寿医療センター研究所「認知症の人と家族のための心理支援の手引き」

国の認知症施策の方針

令和6年1月 共生社会の実現を推進するための認知症基本法 施行
令和6年12月 認知症施策推進基本計画 策定

認知症施策推進基本計画の概要

【位置付け】共生社会の実現を推進するための認知症基本法（令和5年法律第65号。以下「基本法」という。）に基づく国の認知症施策の基本計画。これに基づき、地方自治体は推進計画を策定（努力義務）。

前文 / I 認知症施策推進基本計画について / II 基本的な方向性

- 基本法に明記された共生社会の実現を目指す。
 - 認知症の人本人の声を尊重し、「新しい認知症観」※に基づき施策を推進する。
※①誰もが認知症になり得ることを前提に、国民一人一人が自分ごととして理解する。②個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間と共に、希望を持って自分らしく暮らすことができる。
- ⇒ ①「新しい認知症観」に立つ、②自分ごととして考える、③認知症の人等の参画・対話、④多様な主体の連携・協働

III 基本的施策

- 施策は、認知症の人の声を起点とし、認知症の人の視点に立って、認知症の人や家族等と共に推進する。
- ⇒ 以下の12項目を設定：①国民の理解、②バリアフリー、③社会参加、④意思決定支援・権利擁護、⑤保健医療・福祉、⑥相談体制、⑦研究、⑧予防、⑨調査、⑩多様な主体の連携、⑪地方公共団体への支援、⑫国際協力

IV 第1期基本計画中に達成すべき重点目標等

- 次の4つの重点目標に即した評価指標を設定：①「新しい認知症観」の理解、②認知症の人の意思の尊重、③認知症の人・家族等の地域での安心な暮らし、④新たな知見や技術の活用
- 評価指標は、重点目標に即して、プロセス指標、アウトプット指標、アウトカム指標を設定

V 推進体制等

- 地方自治体において、地域の実情や特性に即した取組を創意工夫しながら実施
- 地方自治体の計画策定に際しての柔軟な運用（既存の介護保険事業計画等との一体的な策定など）
- ①行政職員が、認知症カフェ等様々な接点を通じて、認知症の人や家族等と出会い・対話する、②ピアサポート活動や本人ミーティング等の当事者活動を支援する、③認知症の人や家族等の意見を起点として、施策を立案、実施、評価する。

認知症施策のキーワード

共生社会の実現

新しい認知症観



本事業の目的

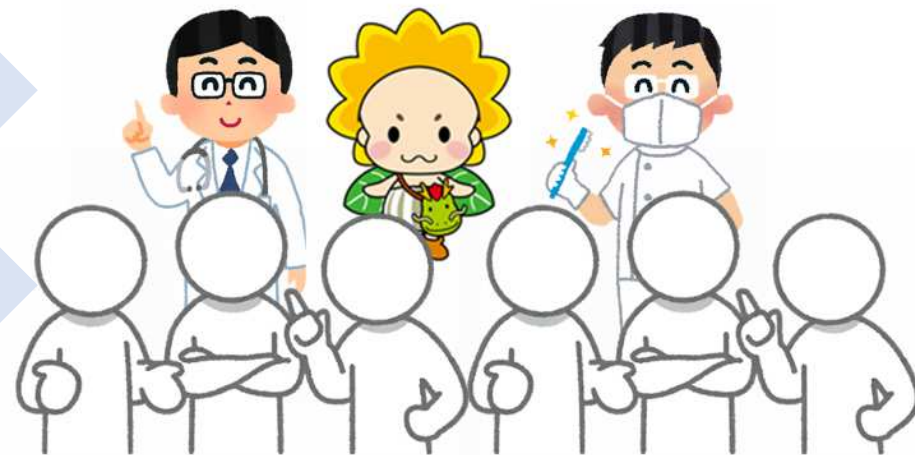
モデル自治体を選定し、具体的な地域において、認知症の本人が住み慣れた地域で希望を持って自分らしく暮らし続けることができるように支援モデルを検討する。

地域包括ケアシステム学会の多職種によるWGで検討

さらに地元の医師らもWGメンバーに

今年度取り組むことは先行して取り組む

まんのう町マスコットキャラクター
まんテンちゃん



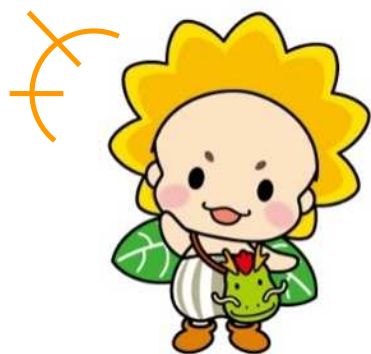
認知症予防プログラム普及および認知症共生社会実現に向けた支援モデル検討業務 ワーキンググループ（WG）構成員

一社）高松市医師会	副会長	吉澤 潔	綾歌地区在宅医療介護連携支援センター	副センター長	増田 玲子
一社）香川県医師会	副会長	大原 昌樹	まんのう町地域包括支援センター	係長	真鍋 裕子
一社）高松市医師会	理事	中村 光夫	まんのう町地域包括支援センター	主査	正木 地里
大山内科医院	院長	大山 康之	まんのう町地域包括支援センター	主任主事	浅尾 千恵子
まんのう町国民健康保険造田歯科診療所	所長	木村 年秀	まんのう町地域包括支援センター	主事	齋藤 春菜
一社）香川県医師会	常任理事	佐藤 仁	一社）丸亀市医師会	会長	岸本 裕司
公社）香川県歯科医師会	高齢者歯科保健部部員	大西 信亮	香川県健康福祉部健康政策課	課長補佐	岸上 勝哉
香川県立保健医療大学	准教授	土岐 弘美	香川県健康福祉部健康政策課	副主幹	細谷 美奈子
一社）香川県理学療法士会	副会長	藤井 保貴	香川県健康福祉部健康政策課	主任	國方 裕貴
一社）香川県薬剤師会	理事	林 哉江	香川県健康福祉部健康政策課	主任	増田 史也
一社）香川県作業療法士会	理事	樋本 英司	一社）香川県医師会	局長	横井 一洋
一社）香川県言語聴覚士会	会長	合田 佳史	一社）香川県医師会	次長	頼富 真奈美
公社）香川県栄養士会	理事	岡野 幸代	一社）香川県医師会	主任	岩部 圭

認知症になっても 「きっと何とかなるよ」と 声をかけあえる町へ



まんのう町認知症
まちづくりイベン
ト終了後
WGメンバーと
R7.12.18



まんのう町 イメージキャラクター
まんテンちゃん

まんのう町 福祉保険課 地域包括支援センター

真鍋裕子(SW) 末久春菜(PHN)

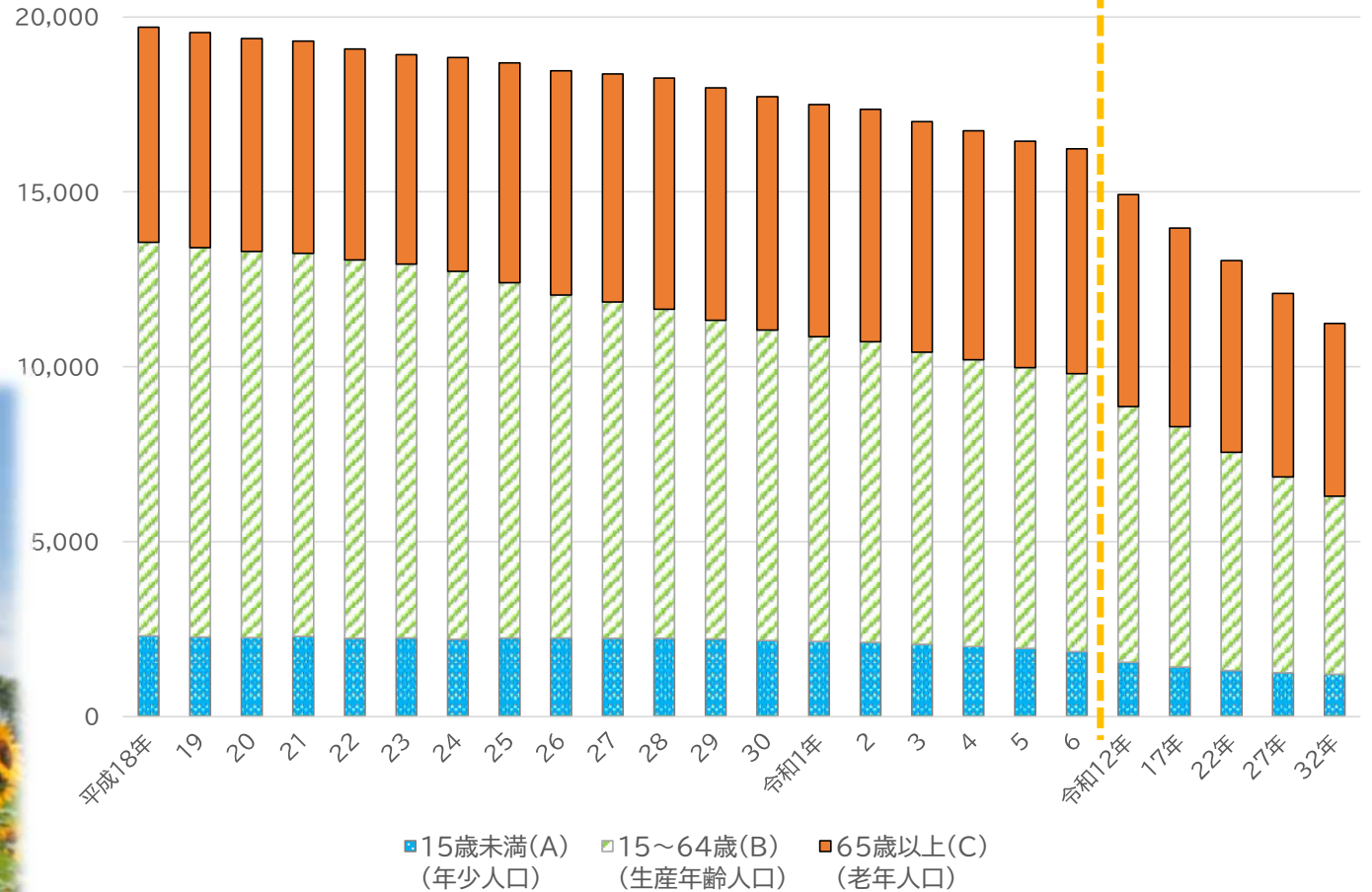
浅尾千恵子(主任CM NS) 正木地里(PHN)

まんのう町の現状と課題

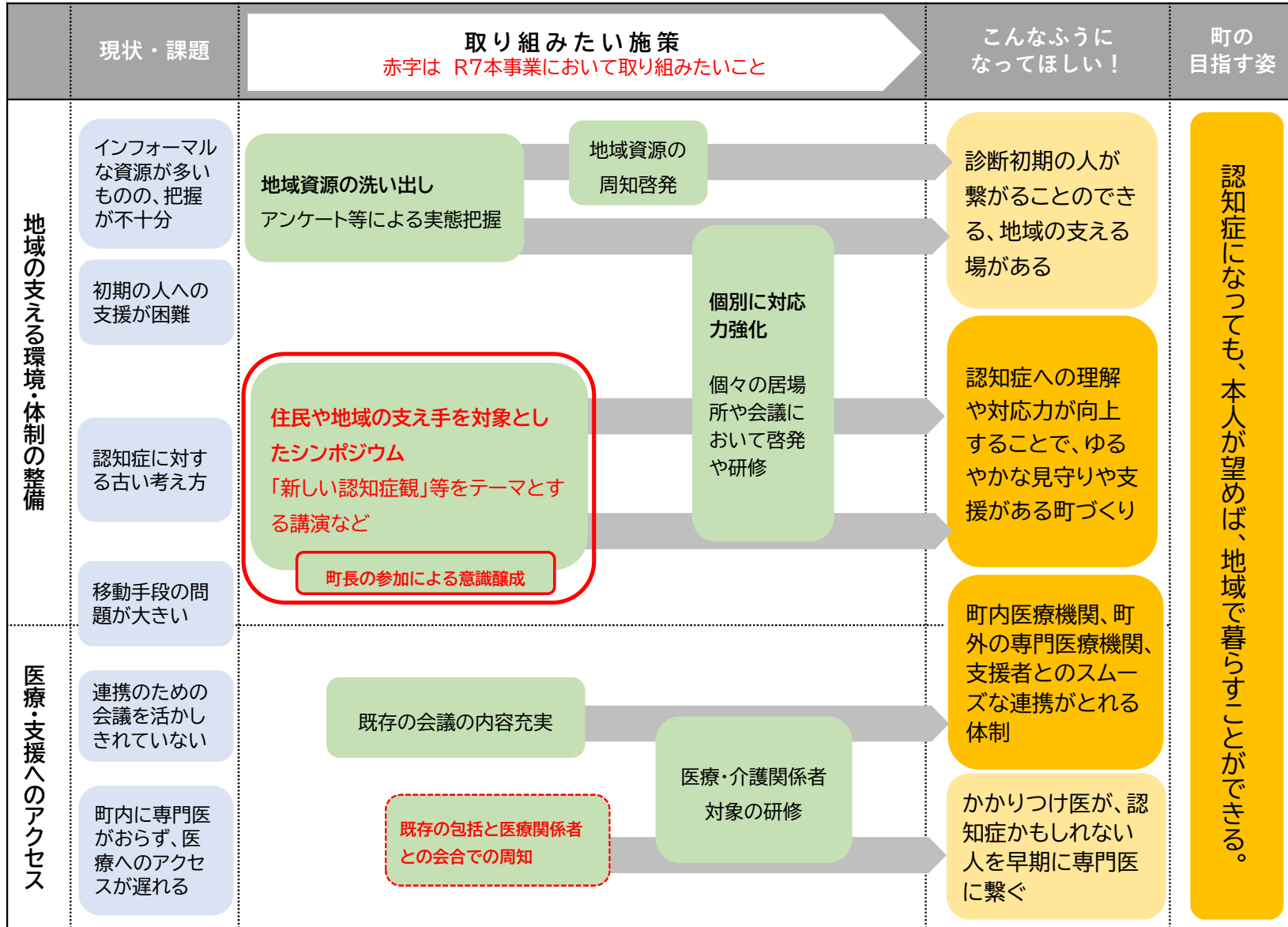
人口 16,865人
高齢者数 6,499人
高齢化率 **38.5%**
(R8年1月1日時点)



年齢別人口推移



出典：令和6年までは「香川県人口移動調査報告」
令和12年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

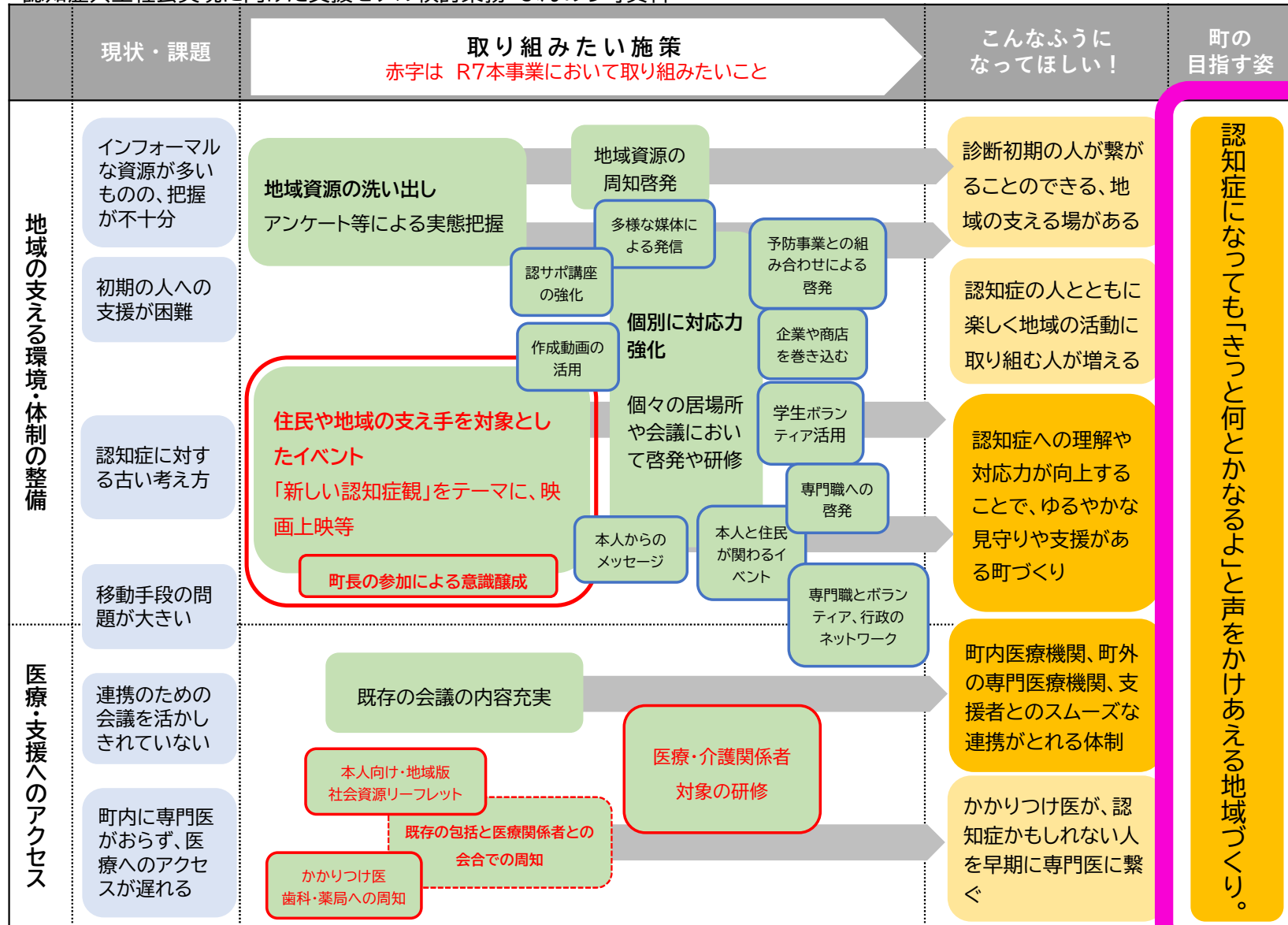


認知症になっても、本人が望めば、地域で暮らすことができる。

「町の目指す姿」の明確化

WGのメンバーとの話し合いを繰り返す中で
より自分たちがどんな町づくりをしたいか、が明瞭になってくる





地域の支える環境・体制の整備

関わり方が
難しい

何もできない

知られたくない

なりたくない

怖い

不安

治らない

わからない

認知症に対する
古い考え方

初期の人への
支援が困難

インフォーマルな
資源が多いものの、
把握が不十分

移動手段の
問題が大きい



「新しい認知症観」 まず自分たちの意識をチェンジ！

- イベントを企画するも…
いつの間にか“学ぶ方法”ばかりにとらわれていた

どうやったら
分かってもらえるん
だろう？



聞くばかりでは残らない！ **感情**に訴えかけるのよ～



- 地域づくり、まちづくりをしたい
 - 認知症の本人のことばを聴きたい
 - 住民と一緒に心で感じて、共有したい
- ➔ きっと記憶に残りやすい
「新しい認知症観」へ変わるきっかけになる

地域の支える環境→人づくり、まちづくり

まんのう町まちづくりイベント

「新しい認知症観へチェンジ！」
～認知症になっても「きっと何とかなるよ」と
声をかけあえるまんのう町を目指して～

【プログラム】

- 映画「オレンジ・ランプ」の上映
- まんのう町の仲間から伝えたいこと～医療者編～
WG座長 中村先生 大山内科医院 大山先生 造田歯科診療所 木村先生
- まんのう町の仲間から伝えたいこと～ボランティア編～
認知症カフェ・チームオレンジの認知症サポーター

まんのう町認知症まちづくりイベント

新しい認知症観へチェンジ!

～認知症になっても「きっと何とかなるよ」と声をかけあえるまんのう町を目指して～

人生100年時代。認知症とともに生きることが当たり前の時代を私たちは生きています。認知症になっても、希望を持って自分らしく暮らし続けられるように「新しい認知症観」で、誰もが住みやすいまんのう町をつくらせていきましょう。

参加無料

要申込

日時 令和7年12月18日(木)
13:00～16:15 (12:15受付開始)

会場 まんのう町町民文化ホール
(まんのう町生期415-1)

対象 まんのう町に住んでいる方、家族が町内に住んでいる方、町内に勤務している方、とにかくまんのう町を盛り上げたい方

イベントスケジュール

12:15	受付開始
13:00	開会
13:10	映画「オレンジ・ランプ」上映
15:10	まんのう町の仲間から伝えたいこと
16:15	閉会

映画「オレンジ・ランプ」ストーリー

妻・真知子と二人の息子を養育する真知子の母親一徳、失業した自らを養育者「オーラ」のトップ女優マユ。そんな縁に、真知子の母を助けるための真知子が訪れる。ふたりの関係は、母を育てたマユの「認知症」の歴史、真知子、平塚の歴史が語られていく。そして、とうとう真知子も病気になる。真知子の母を助けるために真知子は、ついに真知子に会い、まがついに母と真知子を取り戻すことができていく。

主演 まんのう町・香川県・香川県地域包括ケアシステム学舎

先生方も巻き込んで！～医療者編～



ボランティアも巻き込みたい！～ボランティア編～

【 認知症カフェ 】

- 認知症カフェへの認識の差
 - 認知症カフェなのに…
 - …“認知症”というワードに抵抗感
 - …相談できる雰囲気ではなさそう
- ➔ 3要素が揃った「認知症カフェ」に！
- 楽しむ 学ぶ 相談する

【 チームオレンジ 】

- チームオレンジは行政主体
 - 本人・サポーターの力を活用しきれていない
- ➔ 本人・サポーターが主体的に参加できる場に！

ボランティアさんにも変化が…

- 参加者にもできることを手伝ってもらいたい
- 閉じこもりがちな人がなかなか出せない一歩をサポートしたい
- 今後は相談事業もしたい



【オールまんのう】へ



- 協力依頼
町長、各課、社会福祉協議会
町民文化ホール
中讃ケーブルテレビ（告知・記録撮影・DVD化）
認知症カフェ・介護事業所（模造紙作成）
- 周知
課長会・議会、ホームページ、広報誌
通いの場、公民館、介護事業所
- 企業へポスター掲示依頼
スーパー、コンビニ、農協
郵便局、国営讃岐まんのう公園…等



いよいよイベント当日



イベントハイライト

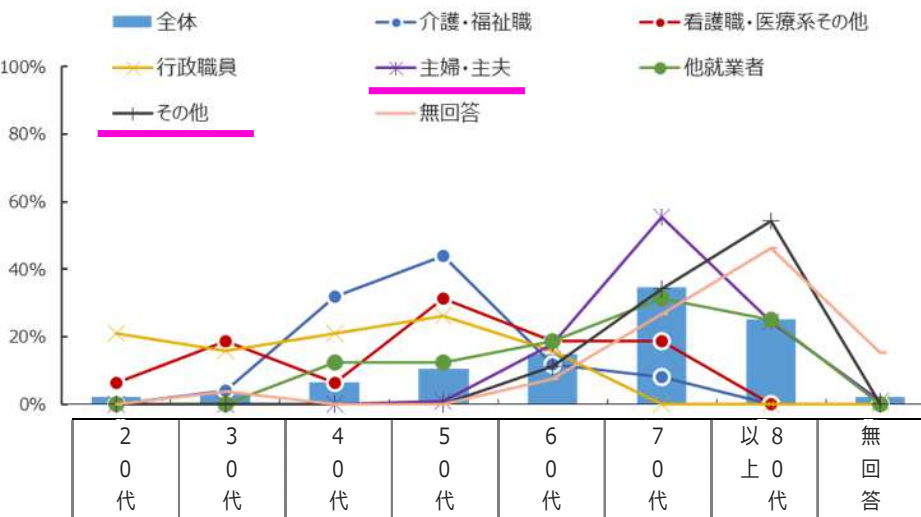


アンケート結果①

参加者数（スタッフ含） **297名**
アンケート回収率 **76.4%**

Q.イベント参加前、認知症に対して
どのような印象をもっていましたか（複数回答可）

Q.年代×職種



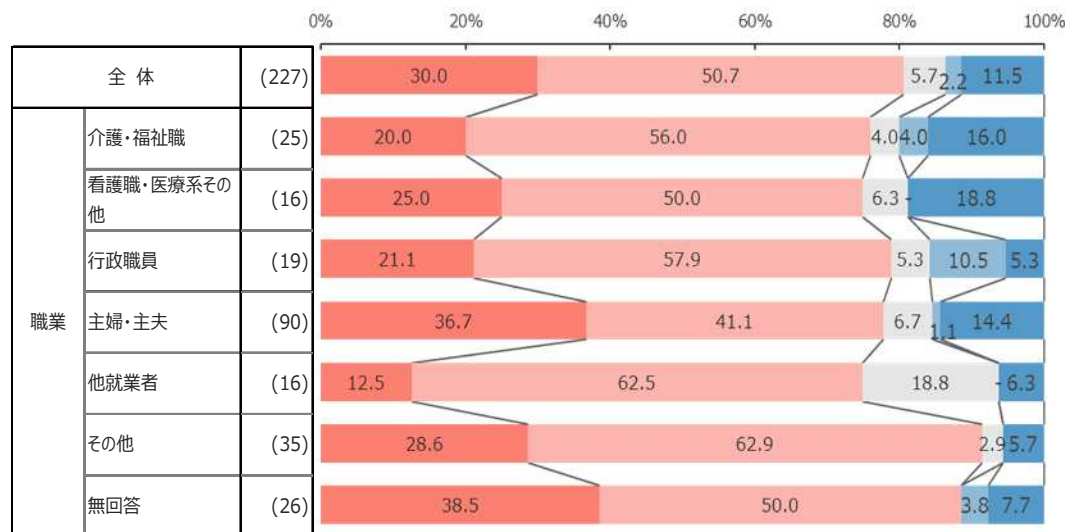
		い怖い病気だと思って	関係が難しいと	身近な問題ではない	よくわかんない	認知症についてよく	家族や身近な人が認知症で困ったこと	認知症の人と接した	認知症になってしまった	特に印象はなかった	無回答
全体 (n=227)		24.2	29.5	18.1	11.5	11.5	46.7	63.9	9.3	1.3	2.2
職業	介護・福祉職 (n=25)	8.0	24.0	12.0	-	24.0	32.0	84.0	12.0	-	-
	看護職・医療系その他 (n=16)	25.0	12.5	6.3	6.3	12.5	37.5	62.5	12.5	12.5	12.5
	行政職員 (n=19)	15.8	31.6	5.3	10.5	5.3	36.8	68.4	10.5	-	-
	主婦・主夫 (n=90)	25.6	34.4	26.7	13.3	10.0	55.6	63.3	7.8	-	-
	他就業者 (n=16)	25.0	37.5	18.8	18.8	18.8	68.8	68.8	25.0	-	-
	その他 (n=35)	28.6	22.9	14.3	5.7	8.6	48.6	65.7	5.7	-	5.7
無回答 (n=26)		34.6	30.8	15.4	23.1	7.7	26.9	38.5	3.8	3.8	3.8

【基数：全体】

アンケート結果②

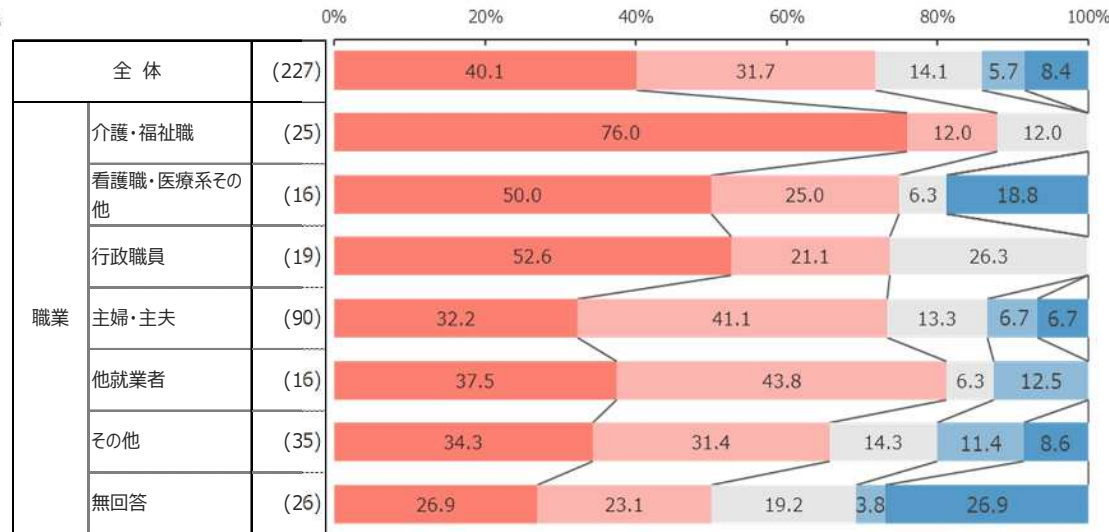
Q. イベント参加後、認知症に対する印象は変わりましたか

■ 大きく変わったと思う
 ■ 少し変わったと思う
 ■ あまり変わらなかったと思う
■ まったく変わらなかったと思う
 ■ 無回答



Q. 認知症の方やご家族に声をかけることは自分にでもできそうだと思いますか

■ 自然に声をかけられると思う
 ■ 少し勇気があるけど、できそうな気がする
■ 勉強したり経験を積みれば、できるようになると思う
 ■ むずかしいと思う
■ 無回答



Q. 認知症の方への取組みに参加してみたいと思いますか

「参加してみたい」「機会があれば参加したい」と回答した方が8割

アンケート結果③



50代女性

「母の気持ちや立場を十分に理解できていなかったと反省した。
手のひらに“怒らない”とすぐに書きたい」

「認知症には怖いイメージがあったが
こうしたイベントを通して少しずつ印象が変わると思った」



60代女性



70代男性

「認知症になっても隠さず、みんなに知ってもらうことで
楽になることもあると気付いた」

「認知症になった人には話しかけたくなかったが
できる限り声掛けしてあげたいと思った」

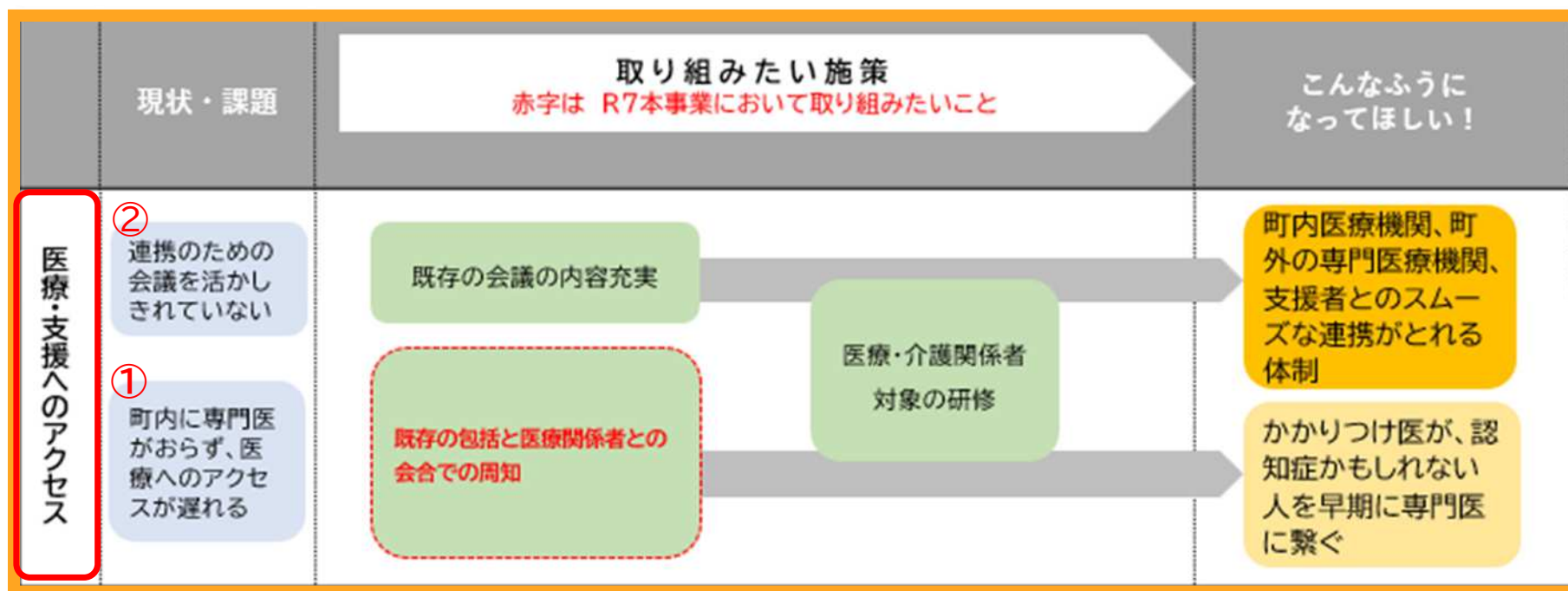


80代女性

認知症になっても「きっと何とかなるよ」と
声をかけあえるまんのう町へ 確実に一歩前進したことを実感



医療・支援へのつながりにくさ



課題

- ①町内に専門医がおらず、医療へのアクセスが遅れる。
- ②連携のための会議を活かしきれていない。

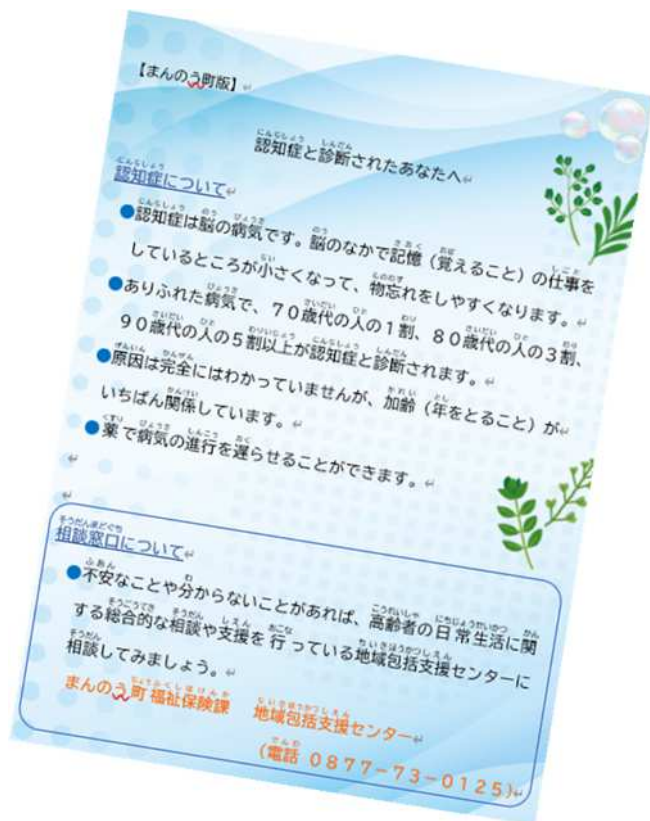


WGへ課題を共有



つなく、つながるためのツール作成

課題①



「認知症と診断されたあなたへ」
認知症本人へのメッセージ。
相談先や、地域のカフェ、利用できるサービスについて掲載されている。

まんのう町内の医療機関、歯科医院、薬局へ、「認知症が疑われる患者の対応に関するお願い」として連携をすすめる文書を作成、12月上旬発送。

認知症サポート医 大山内科医院の大山康之先生考案

仲多度南部在宅医療・介護連携推進会議

「認知症共生社会実現に向けた支援」について、推進会議で一緒に考えていく

第1回目 R7.8.21

第2回目 R7.10.23

「支援モデル検討業務」について、香川県健康政策課より趣旨説明



「新しい認知症観」 ≠ 支援者の価値観

熱中症の危険があるのに、クーラーのコンセントを抜いてしまう。説明しても忘れてしまい困っている

認知症があり、薬の飲み忘れや、飲みすぎていることもあり心配

家族との関係性が悪く、暴言があり、どうしていいか…

支援者が困っていることを話すだけで、グループワークの時間が終わってしまう

ペットが適切に管理できていない。増えすぎて、不衛生な環境で困っている

支援者と「新しい認知症観」を共有したい

仲多度南部在宅医療・介護連携推進事業 多職種研修会



令和8年1月22日（木） 14:00～16:00

まんのう町役場3階 大会議室

テーマ「認知症の人への支援について考える」

情報提供：大山内科医院 院長 大山康之氏

香川県健康政策課

新しい認知症観に基づいた事例検討（2題）

①認知症の人の意思決定支援

②服薬管理支援のための多職種連携



出席者 74名

グループワークの構成

令和7年度 仲多度南在宅医療・介護連携推進事業 多職種研修会

事例検討

- ① 認知症の人の意思決定支援 居宅介護支援 小国 松浦真由美
- ② 服薬管理支援のための多職種連携 香川県薬剤師会 林哉江

事例① 経過と支援のポイント 「認知症の人の意思決定支援」

本人の意思決定を大切にされた結果、本人、家族、支援者が良好な状態になった。

【本人】

本人と話し、好きなことをきく。⇒補木を見ることや、人と話すこと

庭の補木がきれいになった。

デイサービスが安心できる場所になり、自分の尊厳が守られていると感じられたのかもしれない。

【妻】

他のサービスへもつながっていった。

妻の話をきく。家事や介護についても相談できる、自分のことも気にかけてくれる人がいるという安心感が、「できるだけ家でみてあげたい」という言葉につながったのかもしれない。

⇒「できるだけ家で本人の意思決定を大切にされた結果、本人、家族、支援者が良好な状態になった。」

事例② 経過と支援のポイント 「服薬管理支援のための多職種連携」

- ☑ 本人に見えない場所に保管し、専門職からの配薬に変更。
- ☑ 頓服の薬は、数を毎回確認し、飲みすぎても問題ない分量の一定数で補充した。

本人の意思や思い、薬について気になることはないが、聞く。本人の力や強みをアセスメント

⇒本人は薬を飲みたい。

見えるところにあれば、台の上ででも飲もうとする。

家族、支援者と緊急時の対応の共有。

細やかで、丁寧な情報連携と、状況に応じた柔軟な対応。上手くいったり、いかなかったり、繰り返し話し合っ、方法を探しながら対応している。

スライドで事例紹介

①グループワークのテーマ

事例1)「認知症の人の意思決定支援」

事例2)「服薬管理支援のための多職種連携」

②事例紹介(基本情報、既往歴・現病歴、処方薬等)

③経緯(本人の状況、性格、好み、家族の介護負担等)

④グループワークの説明(何について、時間、発表者等)

【グループワーク】

⑤経過と支援のポイント

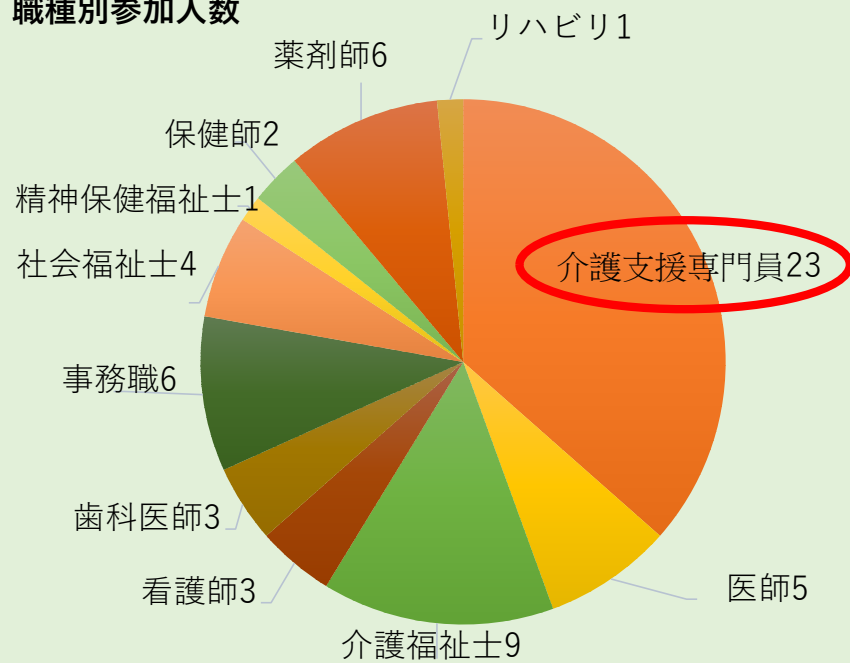
⑥この研修の目的・まとめ

グループファシリテーターのコンセンサス形成
「新しい認知症観」・「全員参加型」・「未来志向」



アンケート結果①

職種別参加人数

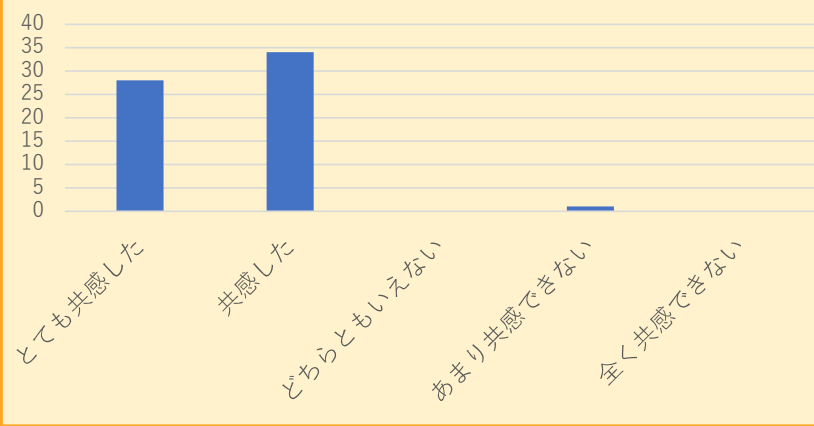


- CM
- 医師
- 介護福祉士
- 看護師
- 歯科医師
- 事務職
- 社会福祉士
- PSW
- 保健師
- 薬剤師
- リハビリ

基本法理念の理解



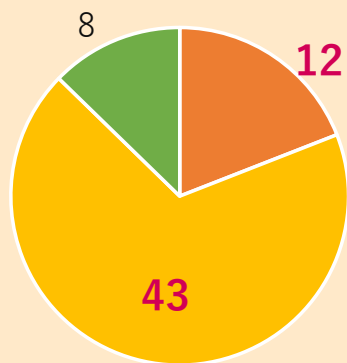
本人のやりたいことや強みに着目する重要性



認知症の人を含めた全国民が尊厳を保持しつつ希望をもって暮らすこと、認知症本人の意向を丁寧に汲み取ることへの理解が深まった

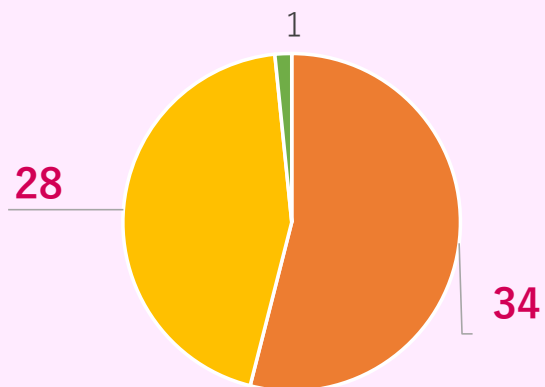
アンケート結果②

本人のやりたいことを阻害
している障壁に気づく



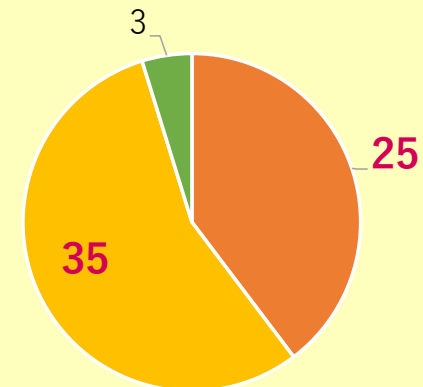
- いくつもあると気づけた
- 気づけた
- どちらともいえない
- 気づけなかった
- ないと思う

「チームでどうすれば実現で
きるか」を考えること



- とても重要だと思った
- 重要だと思った
- どちらともいえない
- それほど重要ではない
- 全く重要とは思わない

他の職種の視点を知ること
で支援の幅が広がった



- とても広がった
- 広がった
- どちらともいえない
- それほど変化していない
- 変化なし

「新しい認知症観」の共有 〈研修後の感想〉

- 大切なのは、認知症の本人の気持ち、ということが心に残りました。（精神保健福祉士）
- 本人の思いを知ること。主体的に考えてもらえるように伝えていく大切さ。（CM）
- 専門職の決めつけからサービスが決まってしまうないように、本人の強みに注目し、本人の意向を確認してアセスメントし、サービス提供できるようにしたい。（CM）
- 本人の気持ちをなかなか聞けていない。一度だけでなく、何回も聞いて、その人らしい生活を送っていけるよう支援していきたいです。（介護福祉士）
- 認知症の方へ漫然とした対応をしていないか、見直すきっかけにしたい。今後多職種との連携を進めていくように心がけたい。（医師）

チームコミュニケーション

WGでの検討会を終えて

ボランティアの方が認知症カフェの運営を楽しそうにされていて、とても印象的でした。

本人さんへのメッセージがとてもすばらしいので、今後もっと必要な方の手元に届くように活用の仕方を考えてみてください。



日頃の活動の積み上げだと思いますが、住民同士の横のつながりや、互助のある地域性を感じました。

初めての取り組みで、不安な表情だったのが、少しずつ自信がついて積極的に事業に取り組んでいく様子に、まんのう町のみなさんの成長を感じました。

「こんなふうになってほしい」私たちのビジョンに向けて

- ◆町内医療機関、町外の専門医療機関、支援者とのスムーズな連携がとれる体制
- ◆かかりつけ医が認知症かもしれない人を早期に専門医につなぐ

共生社会の実現を推進するために私たちにできること

地域の支える環境・体制の整備

認知症本人の声を地域へ届けるために

- ▶ **本人視点に立つ取組み**
 - ・ チームオレンジや認知症カフェと連携して、認知症本人や家族の声を拾い、誰もが住みやすい地域づくりに活かす
 - ・ チームオレンジ開催回数を増加（年4回→年6回）

「新しい認知症観」を地域へ定着させるために

- ▶ **普及啓発の拡充**
 - ・ 「新しい認知症観」や認知症の本人の視点を取り入れた認知症サポーター養成講座を、若い世代や認知症の人と関わる機会の多い職場（民間企業、商店、金融機関等）を対象に開催
 - ・ 「新しい認知症観」をテーマに、広報誌に隔月連載
 - ・ R7まちづくりイベントの収録DVDを地域のイベントで上映

住民同士が支え合う仕組みを拡大するために

- ▶ **ボランティア活動の充実**
 - まんのうささえあいサービスの利用範囲拡大について、社会福祉協議会等関係機関と検討会開催予定

共生社会の実現を推進するために私たちにできること

医療・支援のネットワークの充実

本人や家族が適切な支援へ
確かに繋がるために

- ▶ **まんのう町版・本人向けリーフレットの活用促進**
 - ・本人向けリーフレットを、どうやって必要とする方の手元に届けられるか、認知症カフェやチームオレンジ、関係機関の連絡会等で、一緒に検討する

包括スタッフの対応力向上
のために

- ▶ **地域包括支援センターの体制整備**
 - 医療機関や関係機関、認知症カフェ等からの相談に対応するため、対応力向上のためのOJT（ケアマネ勉強会等）を実施

地域の専門職の対応力向上
と連携強化のために

- ▶ **地域ケア個別会議の充実**
 - ・本人視点に立った認知症の方への支援を事例を通じて考える
 - ・多職種連携を強化するため、管理栄養士・歯科衛生士の参画を検討予定

本人の意思を尊重した支援
のために

- ▶ **ケアプランへの反映**
 - 「認知症の方」を対象としたケアプラン点検を実施し、「新しい認知症観」の視点でのプラン作成への助言

共生社会の実現を推進するために

地域包括支援センター
社会福祉士・主任CM
保健師

「新しい認知症観」について
何度も話し合う

同僚、町長、庁内の職員、医療・介護・福祉の支援者、地域のサポーター、本人、家族、県、地域包括ケアシステム学会WG等

- ❁ アウトプットの反復で、「新しい認知症観」が自分の言葉に。
- ❁ 認知症支援へのモチベーションUP↑
- ❁ 仕事に取り組む心の充実と達成感❁
- ❁ 強みや「良いところ」を自覚できるようになる。



- ❑ お互いの考えや経験、価値観を認め合う。
- ❑ 「強み」を認識し、気づきを伝え合う。
- ❑ チームコミュニケーションへの意識が醸成される。
- ❑ 自分のできることを考え、主体的に取り組める。
- ❑ お互いにカバーし合えるネットワーク作り。

話し合うことを始めれば、具体的な活動や連携の中で「共生」を実感できる。

たくさんのご支援を本当にありがとうございました！



まんのう町地域包括支援センター
左から 末久・真鍋・正木・浅尾

